



お米を食べるぼく

高崎市立寺尾小学校 6年

豊田 達也

ぼくは小学六年生の男だ。身長はふつうで体重はふつうよりちょっとあると思う。

ぼくの家は四人家族だ。お父さんとお母さんとお姉ちゃんとぼくだ。

ごはんは、だいたいお母さんがつくる。台所にあるデンシレンジの台の下の米びつの中には、いつも米がたくさん入っている。ぼくは、お母さんが、お米をついっかり買ってくるのを忘れてらこまるから、ちょくちょく米びつの中をのぞいて、まだ大丈夫か確認する。お母さんは気づいてないと思うけど、これは、ぼくの仕事だと思っている。

お母さんのつくる食事は、ごはんのことが多い。お腹がいっぱいになるからお米が好きなんだと前に言っていた。だから、ぼくもお米が好きだ。冷たいごはんにお茶づけもいいけど、やっぱり、あたたかいごはんが好きだ。すいはん器のふたを開けたときに、モコモコっと出てくる湯気とにおい。お茶わんによそただけでまだ口に入れてないのに、だ液とごはんがまざっておいしいイメージが、先に頭の中をグルグルまわる。たきたて→ホクホク→おいしい→いっぱい食べられる→すいはん器が空。家族で一番小さいぼくが一番食べる。おかずが終わっても気にならない。だって、塩でも、しょう油でも、なにもなくても米だけでも、ぼくはいける。

5年生の時、学校の授業でお米づくりの体験をした。田うえは、足に土があたって、つめたいのと、くすぐったいのと、気持ちいい感じがまざった不思議な感じ。稲かりは、生まれてはじめてカマをつかったから、ドキドキで、きんちょうしたことを覚えている。授業以外のお米の世話は、地区のボランティアの方が手伝ってくれたから、ぼくたちは、むずかしいところは、やってない。雨が降りすぎてもダメだし、逆に雨が少なすぎてもダメ。晴れすぎでも、くもりすぎでも、暑すぎでも寒すぎでもダメ。自然を相手だから、お米づくりをしている人は、いろいろな事を予想して段どりするからすごいと思う。おいしいお米をありがとう。

ぼくは、まだ小さいけど、今にきつと、お父さんぐらい大きくなると思う。もしかしたら、お父さんよりも大きくなっちゃうような気がする。だって、お父さんよりも、ぼくの方が、いっぱいごはんを食べているから。ごはんをお腹いっぱい食べて、いっぱい寝て、たくさん運動して、大きく大きくなりたいです。田んぼの稲たちに負けないぞ。